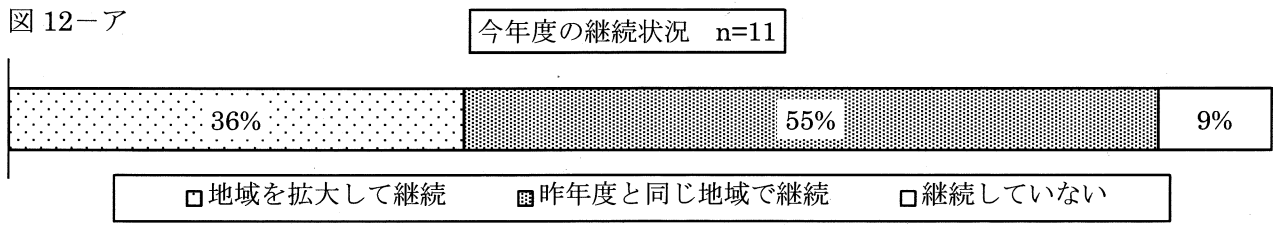
(12)　今後の推進

ア 事業の継続状況

今年度の取組についておたずねします。（どれか１つ）　教委問１（7）

図 12－ア



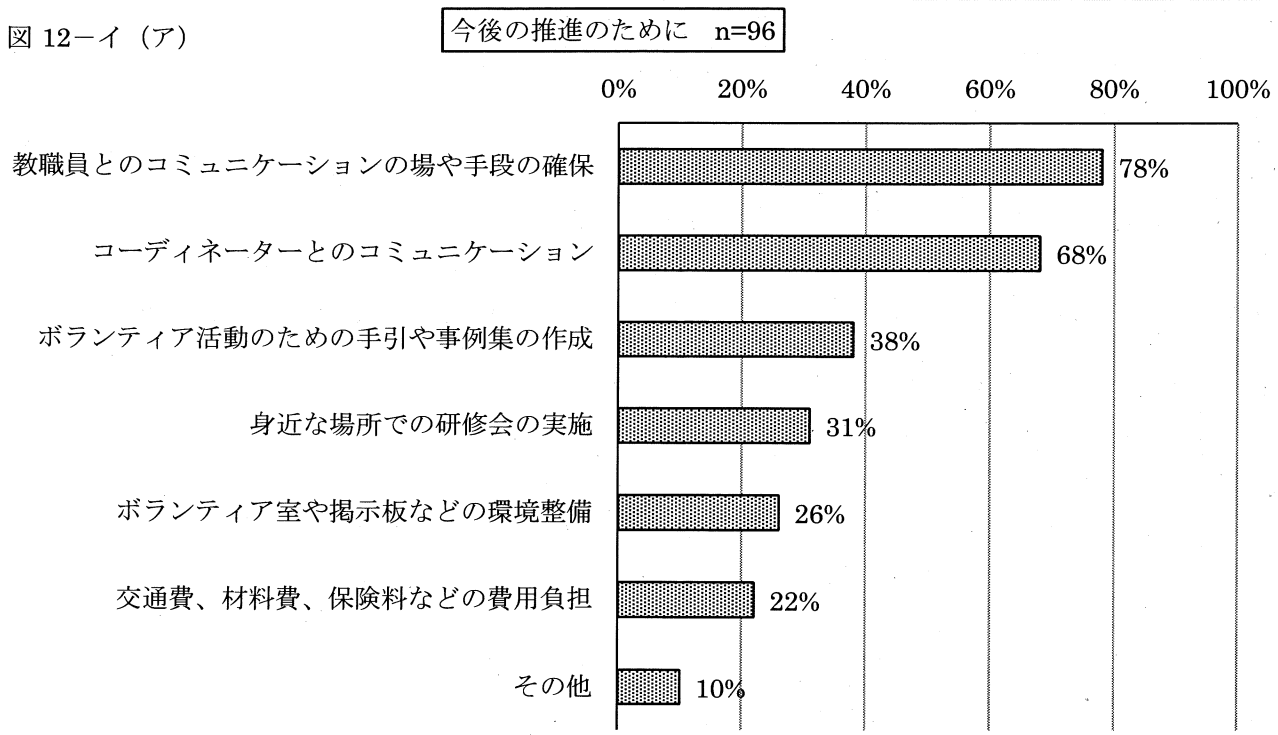
今年度継続しているのは、回答のあったうち91%（10市町）である。うち地域を拡大して継続しているのは36%（4市町）、昨年度と同じ地域で継続しているのは55%（6市町）である。

イ　今後の推進のために

(ア)　学校支援ボランティアから

学校支援ボランティア活動をさらに推進するために大切と思うことは何ですか。（主なもの３つ）　ボランティア問３（1）

図 12－イ（ア）



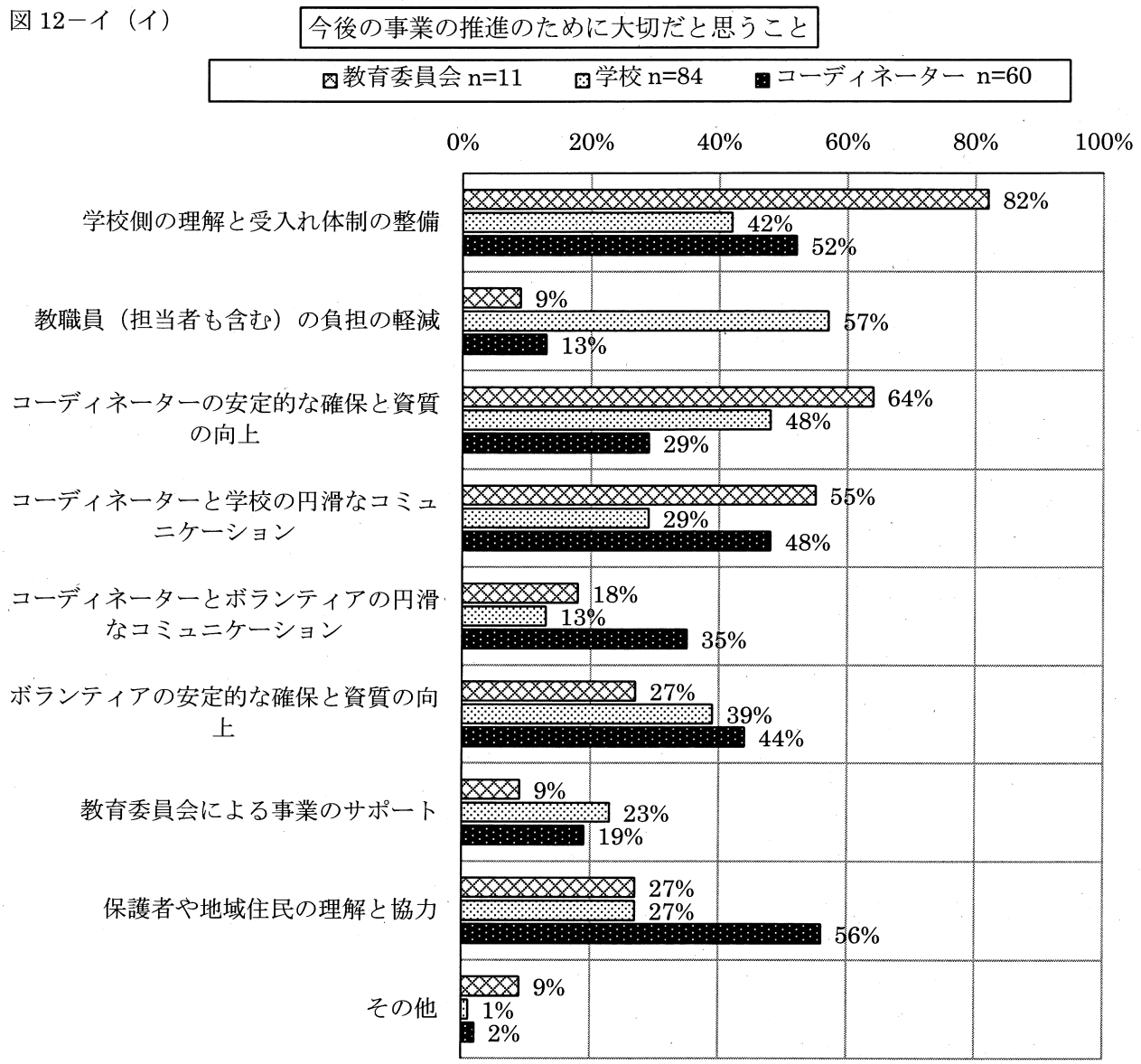
回答した学校支援ボランティアは「教職員とのコミュニケーションの場や手段の確保」が78%で割合が最も高かった。次に「コーディネーターとのコミュニケーション」が68%であった。教職員やコーディネーターとのコミュニケーション不足を感じている様子が分かる。同時に、コミュニケーションを図ることによって、活動がさらに充実していくと考えていることがうかがえる。

その他・・・活動のきっかけづくり。保護者間・ボランティア間のコミュニケーション。活動のPR。
ボランティアニーズの提示。情報発信。学んでいく努力。

(イ) 教育委員会、学校、コーディネーターから

事業の推進のために大切だと思うことは何ですか。(主なもの３つ)
教委問３(1) 学校問３(1) コーディネーター問３(1)

図 12－イ（イ）



最も割合が高かった回答は、教育委員会は「学校側の理解と受入れ体制の整備」で 82%、学校は、「教職員の負担軽減」で 57%、地域コーディネーターは「保護者や地域住民の理解と協力」で 56%であった。

2 番目に高かったものは、教育委員会と学校が「コーディネーターの安定的な確保と資質の向上」で、それぞれ 64%と 48%であった。地域コーディネーターは「学校側の理解と受入れ体制の整備」で 52%であった。

3 番目に高かったものは、教育委員会と地域コーディネーターが「コーディネーターと学校の円滑なコミュニケーション」で、それぞれ 55%と 48%であった。学校は「学校側の理解と受入れ体制の整備」で 42%であった。

【事業推進についての自由記述から】
（教育委員会）
・教員に対して、学校支援ボランティア活動には、地域コーディネーターが必要かつ重要であるということを理解してもらう研修をすることが大切であると思う。
・学校教育担当の研修（教員）の定着化、学校・教職員の理解の度合いにより、事業の成否が大きく左右される傾向があるので、教職員向けの普及・啓発も併せて実施したい。

（学校）
・学校支援地域本部事業の担当は社会教育主事有資格者の方が適切なのか。
・学校に協力できるボランティアが年々減少している。少数のボランティアの方が、いくつもの活動をしている。
・予算がしっかり付き、外部人材を依頼するシステムができれば、どの学校でも活動が充実すると思われる。学校だけでなくコーディネーターの協力も欠くことのできないものであるので、特にコーディネーターの人選には時間をかけた方がよいと思う。
・この事業の推進にあたり地域コーディネーターの専任が非常に大事であると感じた。
・地区全体としてボランティアの発掘。
・ボランティアの相互利用。
・コーディネーターの研修等もありコーディネーターが交替してもこの事業に対する理解、役割に対する理解ができたようである。
・コーディネーターが自主的に活動し、学校支援を進められるようになるまで、学校の事業担当者の負担が大きい。
・コーディネーターを介するより、担任が直接交渉したり内容を話し合ったりした方が、負担が軽くなることが多い。安定的な（コーディネーターの）確保ができれば大変効果的である。
・本校には、地域コーディネーターが４名おり、月１回のコーディネーター会議を実施しているため、情報交換やボランティアの依頼なども比較的スムーズにできている。また、ボランティアルームを確保していただいているので、ボランティアの方々が活動後に情報交換やふりかえりができる。また、コーディネーター会議での提案が「アート展」（登録ボランティアによる展覧会）として実現している。
・合併以前のＯ町ではかなり進んだ取組をしているが、他の旧市町ではこれからなので、Ｏ町以外から異動してきた職員がボランティアとの活動に少々戸惑いを感じている。
・実践事例の情報が欲しい。
・コーディネーターに適した方がいてくださることが大切で、そのための謝金が出せる予算の維持。

（地域コーディネーター）
・この事業は地域の学校としての意識づけをさせてくれたとても良い事業だったと思う。必要な時に必要なだけ活用していくシンプルな形で残せたら良いと考えている。
・地域の方たちにボランティアをしていただける案内を出し、少しでも多くの方に協力していただきたい。
・県の研修のポイントをもう少し細かいところに向けて欲しい。（チラシ作成のポイント・読み聞かせをどう導入したか、どう展開したかetc.）
・学校側は三役（校長・副校長・教務主任）の理解はあるが、教職員の理解には人によって温度差がある（全くコーディネーターのことがわかっていない方もいるように思う。）ので、そのあたりの周知をお願いしたいと思う。
・予算面での行政のバックアップ、行政主導の県全域の連絡協議会（コーディネーター会議）の創設
・共通意識を持つ上でも、研修等で意見交換することは大切。講演や事例紹介も良いが、フリートーキングの時間は倍以上欲しい。
・ボランティアの確保とコーディネーターの確保が難しい。学校は理解があり、とても良い環境である。
・この事業を推進するには何といっても校長が理解をしないと不可能で、ただでさえ「敷居の高い中学校！」を打破しなければ先へ進むのは難しいと痛感している。
・学校支援地域本部事業は地域と学校をつなぐ大きな役割をしている。今後も活動が続くといいと思う。
・職員の中にはボランティアを嫌う方がいて困る。ボランティアの意味を伝えて欲しいと思う。
・水泳の指導、ミシンの指導など、毎年継続の依頼が来ている。事業の成果であろう。
・学校と地域との意識のズレを上手く調整していくのがコーディネーターであり、先生の負担の軽減のため、地域がモンスターにならないため、ぜひ、このコーディネーター事業を続けていけるよう支援していただきたい。